

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ア	交流基盤としてのウチナーネットワークの継承・発展	施策	①国内外のウチナーンチュとの絶え間ない交流
			施策の小項目名	○ウチナーネットワークの継承・発展
主な取組	「琉球・沖縄の知と心」国際発信事業		対応する成果指標	「世界のウチナーネットワーク」サイトのアクセス数(累計)
施策の方向	・国内外県人会や市町村、民間交流団体等との連携の下、10月30日の「世界のウチナーンチュの日」にちなんで世界各地で実施する沖縄に関する様々な取組等を通じて世界のウチナーネットワークの強化を図るとともに、県民や県系人等に対し、移住・移民の経緯や困難を克服してきた歴史や沖縄の文化等に対する理解促進を図りつつ、次世代の担い手の育成や県系人のルーツ調査など、世界のウチナーネットワークの継承・発展に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
海外等での移民関係資料の収集、移民ルーツ調査、郷土資料企画展、講演会を実施する。	県	海外県人会等と連携した海外でのルーツ調査及び資料収集の実施、移民関係企画展示等の開催		
		移民ルーツ調査受付件数(累計)		
		150件	150件(300件)	150件(450件)
担当部課【連絡先】	教育庁生涯学習振興課	【 098-866-2746 】	関連URL	<a href="https://www.library.pref.okinawa.jp">https://www.library.pref.okinawa.jp</a>

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	「琉球・沖縄の知と心」国際発信事業			予算事業名	「琉球・沖縄の知と心」国際発信事業	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
一括交付金 (ソフト)	直接実施	17,647	18,848	一括交付金 (ソフト)	直接実施	19,588
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
第7回世界のウチナーンチュ大会等におけるルーツ調査・企画展・講演会の開催、ブラジル・カンポグランデ市における資料調査を実施。				6月に講演会、8月にブラジル・サンパウロ市等で資料調査・ルーツ調査、11・3月に企画展を開催予定。		

活動指標名	移民ルーツ調査受付件数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	42件	61件	513件	150件	100.0%	順調	第7回世界のウチナーンチュ大会期間中124件、それ以外で389件、合計513件の移民ルーツ調査を受付した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

令和4年度は世界のウチナーンチュ大会の開催（10月30日～11月3日）や「沖縄県系移民渡航記録データベース」の公開（7月20日）などにより、移民に関する関心が高まり、目標値を大きく上回った。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
—	令和4年度はポルトガル語での情報発信等を強化し、ブラジルからのルーツ調査依頼が増加した。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑤ 県民ニーズの変化 (外部環境の変化)	国内外から移民ルーツ調査の依頼が大幅に増加し、回答までに半年以上の時間を要している。	④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	渡航記録データベースやデジタルアーカイブの充実を図り、調査・回答時間の短縮などを図る。
		② 連携の強化・改善	海外県人会等との連携を強化し、海外においてルーツ調査の受付、調査ができるような体制の構築を支援する。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ア	交流基盤としてのウチナーネットワークの 継承・発展	施策	②交流の架け橋となる人づくり
			施策の小項目名	○様々な分野における留学生や研修生の海外派遣等
主な取組	国際性に富む人材育成留学事業		対応する成果指標	海外留学派遣者数・交流者数(累計)
施策の方向	・児童生徒に対する外国語教育及び国際理解教育の充実を図るため、様々な分野における留学生や研修生の海外派遣など国際理解の促進と主体的に行動する国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
21世紀の万国津梁にふさわしい国際性と個性を涵養し、グローバルに活躍できる人材育成を図るため、高校生50名を米国、欧州、アジア、南米諸国へ1年間派遣する(令和4年度は令和5年度派遣生の募集・選考のみ実施)。	県	高校生をアジア太平洋、欧米、中南米諸国等へ約1年間派遣		
		海外留学派遣・交流者数(長期留学)(累計)		
		—	50人	50人(100人)
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【 098-866-2715 】	関連URL	—

様式 1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名	国際性に富む人材育成留学事業 (国際性に富む人材育成事業)				予算事業名	国際性に富む人材育成留学事業 (国際性に富む人材育成事業)		
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額		R5年度			
						主な財源	実施方法	当初予算額
一括交付金 (ソフト)	委託	0	7,437		一括交付金 (ソフト)	委託	58,068	
令和4年度活動内容					令和5年度活動計画			
令和5年度派遣生の募集・選考 (20名) と令和5年度派遣生の事前研修 (2,3月) を実施した。					令和5年度派遣生の派遣・滞在 (20名)、令和6年度派遣生の募集・選考 (9月)、令和6年度派遣生の事前研修 (2,3月) に係る業務を実施予定。			
活動指標名	海外留学派遣・交流者数 (長期留学) (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要	
実績値	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	0人	0人	—	—	0.0%	順調	20名の派遣生の募集・選考を実施した。派遣先に関しては、北米 (米国(18)、カナダ(2)) 限定での派遣とし、令和5年2月に出発前オリエンテーション、3月に保護者オリエンテーションを実施した。	

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>令和4年度までは、世界規模での新型コロナ感染症の影響により事業中止となり、派遣がない。令和4年度の取組としては、令和5年度派遣生20名の募集・選考及び事前研修を実施した。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和4年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度から新規に立ち上げるオンライン国際交流プログラムへの参加を促し、留学前に異文化コミュニケーションを実際に体験する機会を提供する。</li> <li>新型コロナウィルスの感染状況及び、国際情勢の変化を注視し、生徒の安心安全の観点から適切な派遣先を決定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期留学に向けてのゲートウェイプログラムとして、アジア高校生オンライン国際交流事業を新規に立ち上げ、オンラインによるアジア高校生との交流の場を設けた。</li> <li>令和5年度派遣生の募集・選考において、北米（米国、カナダ）限定で募集を行った。</li> </ul>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦争やテロ、物価指数、感染症等、国際情勢による影響や、健康上の問題に留意し、海外派遣については判断する必要がある。</li> </ul>
⑦ その他(改善余地の検証等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期留学において、主体性を養い、適切な語学力を備えることは必須で、選考段階から必要な資質に対する要求を明確にするとともに、派遣生決定後も充実した研修を設定する必要がある。</li> </ul>
② 他の実施主体の状況(内部要因)	<ul style="list-style-type: none"> <li>約1年間の海外留学において、派遣生は異文化への適応や外国語でのコミュニケーションを図ることに対する不安がある。</li> </ul>

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
② 連携の強化・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際情勢及び、感染症との状況を注視しつつ、派遣される生徒の安全を第一に、関係各所と綿密な連携の下、本事業が継続できるように取り組んでいく。</li> </ul>
④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハイブリッドによる研修形式を積極的に活用し、効率的に研修を実施し、派遣生の課題解決を支援するとともに、各種アプリケーションを活用し、研修外でも留学に伴う生徒の心身のケアを行う。</li> </ul>
⑤ 情報発信等の強化・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ前の留学体制を取り戻すためにも、長期留学に関する情報発信を積極的に行う。また、関連する他の細事業と絡めながら、長期留学に繋げる道筋を立てる。</li> </ul>

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ア	交流基盤としてのウチナーネットワークの 継承・発展	施策	②交流の架け橋となる人づくり
			施策の小項目名	〇様々な分野における留学生や研修生の海外派遣等
主な取組	グローバルリーダー育成海外短期研修事業		対応する成果指標	海外留学派遣者数・交流者数(累計)
施策の方向	・児童生徒に対する外国語教育及び国際理解教育の充実を図るため、様々な分野における留学生や研修生の海外派遣など国際理解の促進と主体的に行動する国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りを図るため、目的を絞った分野での短期研修を体験することで、高校生が海外に目を向ける機会とする。	県	高校生を海外短期研修・交流に派遣		
		海外留学派遣・交流者数(短期研修)(累計)		
		80人	80人(160人)	80人(240人)
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【 098-866-2715 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)			
予算事業名	グローバル・リーダー育成海外短期研修事業（国際性に富む人材育成事業）			予算事業名	グローバル・リーダー育成海外短期研修事業（国際性に富む人材育成事業）		
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度			
一括交付金 (ソフト)	委託	76,617	53,363	主な財源	実施方法	当初予算額	
				一括交付金 (ソフト)	委託	53,474	
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画			
アメリカ高等教育体験研修、中国教育交流研修、専門高校生国外研修、沖縄県高校生海外雄飛プログラム(計79名)を実施した。				アメリカ高等教育体験研修、中国教育交流研修、専門高校生国外研修、沖縄県高校生海外雄飛プログラム(計84名)を実施する予定。			
活動指標名	海外留学派遣・交流者数（短期研修）（累計）		R4年度			進捗状況	活動概要
実績値	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	0人	206人	79人	80人	98.8%	順調	各派遣国において、語学、リーダーシップ研修、学生交流等、各研修目的に沿って実施した。また、中国教育体験研修においては、感染症の状況悪化に伴い、オンライン等を活用した代替研修を実施した。



様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>沖縄県高校生海外雄飛プログラムの派遣人数について、当初は生徒20名の派遣を予定していたが、派遣先ハワイの物価高騰、円安、燃料サーチャージの値上げ等により、派遣人数を15名に削減したため、本事業の総派遣人数合計は79名となった。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和4年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地における研修をより深い学びへと繋げるため、ホームステイや学校生活、学生交流を想定した実践的な外国語運用能力をより高めるための研修や異文化理解についての研修を実施。</li> <li>・実践的な語学力を測る各国言語によるプレゼンテーションや、積極性、コミュニケーション能力を測る面接試験内容の構築。</li> <li>・事前研修からオンライン研修を取り入れ、感染症等の影響で海外派遣できない場合は代替研修としてオンライン（オンデマンド）研修等を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地交流校（高校・大学等）の授業を受講し、学生やホストファミリーとの交流を通して、各国の言語運用能力を高め、異文化理解を深めた。</li> <li>・実践的な語学力を測るため、英語によるプレゼンテーション審査を現地大学の講師が行った。</li> <li>・中国教育交流研修は新型コロナウイルス感染症の影響により派遣ができなかったため、オンライン等を活用した代替研修を実施した。</li> </ul>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	・テロや感染症等、世界各地での治安および健康上の問題に留意し、海外派遣については判断する必要がある。
⑦ その他(改善余地の検証等)	・短期研修において、語学力やグローバルリーダーとしての主体性を養うためには、渡航前の事前研修を重点的に実施する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
② 連携の強化・改善	・国際情勢及び感染症等の状況を注視しつつ、派遣生の安全を第一に本事業が継続できるよう取り組んでいく。なお、国内外の感染状況等により派遣できない場合、代替研修（オンライン）を実施する。
④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	・事前研修からオンラインを活用し現地とコミュニケーションを図っておくことで、渡航した際のコミュニケーション・エラーを軽減し、円滑な研修を実施する。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ア	交流基盤としてのウチナーネットワークの継承・発展	施策	②交流の架け橋となる人づくり
			施策の小項目名	○様々な分野における留学生や研修生の海外派遣等
主な取組	アジア高校生オンライン国際交流事業		対応する成果指標	海外留学派遣者数・交流者数(累計)
施策の方向	・児童生徒に対する外国語教育及び国際理解教育の充実を図るため、様々な分野における留学生や研修生の海外派遣など国際理解の促進と主体的に行動する国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
ICT技術の優位性を活かし、沖縄県とアジアの高校生がオンラインでの協働的な学びに取り組む国際交流プログラムを実施し、多様化・高度化する社会へ対応し、沖縄・日本・アジアの将来を担う国際性豊かな人材の育成を図る。	県	沖縄県とアジアの高校生がオンラインで協働的な学びに取り組む国際交流プログラムを実施		
		海外留学派遣・交流者数(海外交流)(累計)		
		100人	100人(200人)	100人(300人)
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【 098-866-2715 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)			
予算事業名	アジア高校生オンライン国際交流事業 (国際性に富む人材育成事業)			予算事業名	アジア高校生オンライン国際交流事業 (国際性に富む人材育成事業)		
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度			
一括交付金 (ソフト)	補助	0	9,584	主な財源	実施方法	当初予算額	
				一括交付金 (ソフト)	委託	17,771	
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画			
沖縄県高校生100名・アジア高校生100名を対象とし、オンラインによる国際交流を実施した。実施期間：令和4年9月～12月				沖縄県高校生200名・アジア高校生200名を対象とし、オンラインによる国際交流を実施する予定。実施期間：令和5年7月～10月			
活動指標名	海外留学派遣・交流者数 (海外交流) (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	—	—	159人	100人	100.0%	順調	プロジェクト活動と講義・ワークショップの2本立てで、沖縄県とアジア高校生がオンラインで国際交流を実施した。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>令和4年度より新たな事業として完全オンライン型の研修を実施した。「プロジェクト活動」と「講義・ワークショップ」に取り組み、沖縄県高校生とアジア高校生の国際交流を深めることができた。令和4年度沖縄県高校生参加者86名（プロジェクト活動47名・講義・ワークショップ39名）、アジア高校生参加者73名がオンライン上で交流を図った。</p>	
<p>(2) これまでの改善案の反映状況</p>	
令和4年度の取組改善案	反映状況
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業のプロモーション活動の工夫及び内容の周知。</li> <li>・事業に参加する生徒のメリットの明確化と、オンラインで実施する意義を周知するための取組。</li> <li>・短期留学、長期留学に繋がる取組へと昇華するための事業設計。</li> </ul>

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加回数にかかわらずすべての生徒が満足できるものになるよう研修内容の充実を図るとともに、プロジェクト活動や講義のテーマを身近で、かつ深い学びに繋がるようなものに精選する必要がある。</li> </ul>	② 連携の強化・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアの交流国との連携を強化し、将来的に派遣も含めた事業設計の見直しを検討するとともに、参加者の声をテーマに反映させるなど、事業の魅力化を図る。</li> </ul>
⑤ 県民ニーズの変化 (外部環境の変化)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポストコロナとなり、コロナ前の活動を取り戻そうとする中、オンラインのみの交流事業でいかに生徒のニーズに応えるかが課題である。</li> </ul>	④ 創意工夫による取組の改善 (合理化・効率化)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインのみに捕らわれず集合型の研修等を開催し、プロジェクト活動等で発生する生徒の困り感に対応するとともに、プログラムサポーターを配置し、必要な補助を提供する。</li> </ul>
⑦ その他 (改善余地の検証等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン交流だけで終わらない取組とする必要がある。</li> </ul>	⑤ 情報発信等の強化・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画された広報活動に加え、各種資料配付時点で学校関係者や参加高校生に分かりやすい情報提示を綿密に計画する。使用するメディアだけでなく、募集要項等におけるわかりやすさを追求する。</li> </ul>